

波崎漁業の安全改善

波崎大学 4班

森田純行 大谷宝 西條学 佐藤和樹 直井利恵 西村幸祐 真野恵美

1. 波崎漁業の3大問題点と改善案

まず、波崎漁業の方からも深刻な問題と言われた、3つの大きな問題点の改善案をそれぞれ考えてみた。

資源の枯渇・・・昔の魚の乱獲が原因となっている。

計画的な漁業プランを立てることにより乱獲や、魚の値崩れを防ぐことができる。また、積極的に養殖業を取り入れ、魚を獲ることだけでなく、育てることも視野に入れることが、大切になる。漁獲したさいの稚魚を放流し、成魚のみを水揚げするように努める。

究極の方法としては、一定期間漁業の休業まで頭に入れ、その期間で、船の整備や養殖業などをすすめて、少しでも生態系の回復をまち、魚の増加を目指す。

労働者の高年齢化・・・若年齢層の漁師離れにより、漁師の高年齢化が深刻な問題。

漁業という特殊な職業であるため、暗いイメージを取り払い、若者が積極的に漁業に興味を持つようにPR活動をする。

また、かなりの高齢になると、仕事柄からくる、生活のリズムや怪我などの心配があるため、その人たちには、若者を指導するような立場にたってもらい、漁業に携わる人の、年齢のバランスが取れるようにする。

学生の短期の漁師体験や気軽にできるアルバイトなども危険がない限り、取り入れる。

設備の老朽化・・・漁船が錆びなどにより老朽化

錆などを防ぐ素材を漁船に取り入れる。また、老朽化の進行を防ぐために常に、設備の点検、手入れや清掃を徹底させる。

2. そのほかの問題点

波崎漁業の方から挙げられた以外にも、われわれ4班員が、実際に漁船に乗ったり、漁師の方や組合員の人から、聞いた話から独自に問題点を挙げ、それに対する改善案を出した。

年齢差による作業問題・・・体力差、考え方の違いによる、年長者と若年層のコミュニケーション不足からくる危険

年長者が危険な作業や作業のコツなど長年の経験を、若い人に伝えるようにできるような環境作りをすすめる。また年長者には、ポジティブな教育が必要である。若年者と年長者の体力差に考

慮し、年長者には夜勤や無理な作業を少なくして、休憩時間や余暇を増加させる。船乗前のスキンシップをはかり、年長者と若年者のよいコミュニケーション作りを促進させる。

1) 足場の安全に関する問題・・・足場の狭さ、滑り易さから作業中の転倒や海への転落事故が考えられる

はしごなどの急な階段から、なめらかなスロープにすることにより、転落の危険性を最小限に抑える。濡れた滑りやすい漁船の床の木板を、滑り止めのついた足マットにする。または、靴などを滑り止めの加工を施したものに替える。

足場を確保するため、網を床下に収納できるようにする。安全地帯の確保をはかり、万が一のときの非難場所を明確にすることもひとつようになる。

2) 作業環境(騒音, 視界)の問題・・・

1. 危険を知らせる声, 音などが機械騒音などによって、妨げられる。

2. 照明不足により、視界不良の夜間作業の危険性の指摘

機械騒音に対しては、騒音防止を装備した機械を導入し、非常時の警報音や人の声を聞き取りやすくする。また拡声器などによる、聞き取り易さの向上もひとつの改善案である。

2. の改善案としては、照明機材を変えたり、照度を向上化させるなどして、夜間作業時の手元や足元の安全を確保しやすいようにする。

3. 結論

このように、波崎の人が考える問題点と、われわれ 4 班が独自に挙げた問題点の改善案をそれぞれ羅列してきた。しかし、このような問題点のほとんど解決することができるひとつの改善案を見出した。

それは、『網を小さくすること』である。

網を小さくすることにより、足場が確保でき作業をしやすく、足元の安全性を確保することにより、網が足に絡まることによる船から転落事故が、防ぐことができる。当然、網が小さいため、一度の漁獲量は減るが、それは、魚の乱獲を防ぐことにもつながる。また、網を巻く際の“巻き込み事故”を減らせ、高齢者が多い漁師の方の作業量を軽減することができるであろう。

人にとっても、環境にとっても優しいことであろう。